

■ 年 頭 所 感



三野 定*

会員の皆様、明けましておめでとうございます。

このところ、プレストレストコンクリート技術が順調に成長発展しておりますことは、誠にご同慶に堪えません。本年は「亥」の年ではありますが、猪突猛進ではなく、着実に発展を図りたいものであります。

昨年の秋、韓国のソウルで落橋事故が起こり、多数の死亡者を出した事件は、われわれ構造物の建設・管理に関係する者にとって、誠に大きなショックでありました。原因については、部分的にはあれこれ言われておりますが、詳細はいずれ十分な調査をまって明らかにされることでしょうか。それはともかく、この事故が橋梁の維持管理の重要性を、鮮明に浮かび上がらせたことは確かであります。落ちたのは鋼橋であります。最も重要な部分を鋼材に頼っている PC 橋にとっても、大きな警鐘として受け留めなければなりません。PC 橋といえども、厳しい気象条件や交通荷重を超越して、丈夫であるというわけにはまいりません。時々の監視は必要であります。最近、都道府県や市町村などで PC 橋が大変普及し、ご愛用いただいているのは、ありがたく思っているところですが、都道府県のように管理面で十分な技術スタッフを常備する余裕のない市町村に対しては、専門技術者でなくても分かる簡単な管理のマニュアルのようなものを供給する必要があるのではないか、と考えております。

なお、この面では道路保全技術センターのご活躍を大いに期待したいと思います。

建設段階で PC 橋が鋼橋に劣るのは、現場作業が多いという点です。それだけ、構造物の出来映えが現場技術者の技倆に左右される度合いが大きいし、したがって発注者の側においても監督の手間がかかるわけで、この点が嫌がられるというわけです。そこで、現場技術者の向上を目指して、昨年、当技術協会では PC 技士制度を創設され、試験によって現場技術者の資格を認定することとされました。誠に、時宜を得たご施策であったと、深く敬意を表するものであります。

幸いに、この制度は順調な迂り出で、本年もまた多数の資格希望者があるようです。ご同慶に堪えません。

PC 建設業協会としましては、また別の観点からも現場作業を減らす努力を続けております。

PC 建設業にとって、良い労働力を確保することが、基本的に重要な課題であるという認識を持って

* Sadamu MINO : プレストレスト・コンクリート建設業協会会長、住友建設(株)取締役会長

◇寄書◇

おります。現場の熟練技能者の高齢化は日に日に進んでいるのですが、これを継承すべき若い人達の参入が少ない状況です。建設現場を若い人達にも魅力ある職場にすることを考えなければなりません。さらに、労働時間の短縮という命題が課せられております。雨天となれば、否応なしに仕事を休まねばならない野外作業現場の従事者にとって、土曜・日曜はとにかくお休みというのは、大変つらいことです。

天候や現場の工程からの制約の少ないプラント作業を多くし、野外現場の作業をできるだけ減らす工夫が望まれているわけです。

この線に沿って、PC建設業協会では、いろいろな省力化工法の推進に努めております。その一例として、協会では近年大径間橋梁をプレキャスト・ブロックを用いる張出し工法で架設する工法など、プレキャスト・ブロックを多用する工法の調査研究を重点的に進めてきて、すでにかかなりの成果を挙げておりますが、技術協会会員の皆様方のこの方面における研究開発を大いに歓迎するものであります。

プレストレストコンクリート技術の発展は、大変目覚ましいものがあります。技術開発が進み、新しい工法も続々と誕生しており、大変嬉しいことです。

しかし、元々外国から輸入されたものだからでしょうか、片仮名の名前が多いのが、一つの特徴であります。佳い日本名がつけられて、すでに市民権を得たようなものもあります。例えば、末広がりの方が気に入られてか、PC斜張橋は大変流行しておりますが、これなどはこれで定着しそうです。吊り床版橋は、あまり多くはありませんが、まずまずの命名で、これで行けそうです。しかし、エキストラドーズド橋というのはどうもいただけません。早く、佳い日本名をつけていただきたいものであります。

実は、プレストレストコンクリートというのも、字数は多いし説明も要るし、正直なところ、閉口しています。鋼弦コンクリートというのも定着しないようで、せめて字数だけでも減らして、PCと呼んでいる現状であります。何かよい知恵はないでしょうか。

今年も皆様とともに、PC技術の発展に努力いたしたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。